

令和4年度おかやまフォーベルネット和牛部会研修会を開催しました

9月30日に、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 機械化連携推進部 機械化連携推進室 機械化連携調整役 志藤博克氏を講師にお招きし、全農岡山県本部家畜市場にて研修会を開催しました。

(1) 講演「和牛の作業事故防止について」

北海道の調査では、農作業負傷事故のうち約3割が牛との接触によるものとなっています。農作業中の事故は報告義務がなく、事故の詳細が不明であり事例が他経営に共有されにくいいため、対策が難しい状況です。

事故は、人のミス以外に環境（緩衝材がない、牛と人を隔てる構造がない等）や牛（普段から神経質、繋がられると嫌がる性格等）、安全対策の有無（リスクの高い牛への対応が未検討等）といった複数の要因が重なっており、これらを明らかにすることで対策を立てることができます。考え方としては、①作業現場の危険源を取り除く（牛の危険行動の原因をなくす）、②取り除けない危険源と人を隔てる（作業環境の改善）、③安全な行動を遵守（安全教育や注意喚起）、の3つのステップに取り組みます。

(2) グループワーク

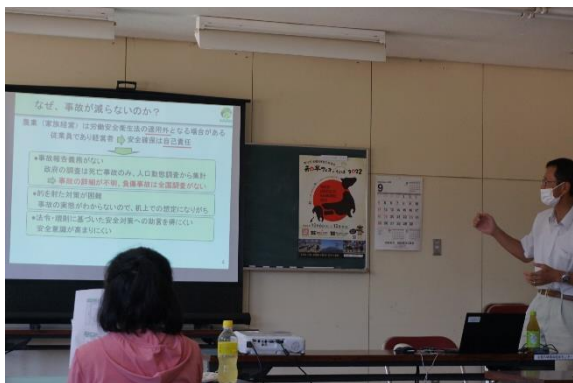
農作業中に危険だと感じたこと、ケガをしたことを各々出し合い、その対策について話し合い、グループごとに発表を行いました。

【事例①】外部導入した牛を放牧したところ捕まえられなくなり、投げ縄で捕まえたら、牛に引きづられた。

〈対策〉馴れていない牛をすぐに放牧しない、スタンションを使って捕まえる、一人で作業しない等

【事例②】部屋替えをした直後に柵の中で作業していたら、牛に足を踏まれた。

〈対策〉牛の行動の理由やパターンを考えて人が気を付けて動く、安全長靴を利用する等



皆さんの農場ではいかがでしょうか？
作業の前に危険だと思う場面を話し合ってみませんか？